

みどりの大使 が行く!



...**2026**...
ミス日本みどりの大使
ながた まなみ
永田 愛実



皆さん、こんにちは。2026ミス日本みどりの大使の永田愛実です。
みどりの大使に就任させていただき、約2ヶ月が経ち、様々な経験をさせていただいています。自然豊かな長崎で育った私にとって、森や木は「そこにあるのが当たり前」の存在でした。しかし今は、その当たり前の景色の裏側に、たくさんの方の手と長い時間がかかっていることを知り、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

「緑の雇用ポスター」

2月末に「緑の雇用ポスター」の撮影で、千葉県君津市の森を訪れました。千葉県森林組合の皆さんに伐倒の様子を見せていただき、チェーンソーで木に切り込みを入れ、倒れる方向を計算しながら作業を進めていく姿はとてまかつこよく、技術の高さに驚



きました。木が倒れる瞬間の「メキメキ」という音とともに大きな音を立てて倒れる光景は、思わず息をのむほどでした。同時に、安全に細心の注意を払いながら作業されている姿から、林業の現場の責任の重さも感じました。

山梨視察、苗木生産

3月には山梨県緑化推進機構の皆様にご協力いただき、山梨県の林業を視察しました。苗木づくりから木材加工まで、いわゆる「川上から川下まで」の流れを実際に見ながら教えていただきました。特に心に残ったことは、森づくりの始まりがとても小さな「種」から始まるということです。私は、木は「そこにあるもの」という感

覚で、種の存在を意識したことがありませんでした。しかし、普段私たちが目にする大きな木も、最初は、ほんの小さな種から育っていきます。そこから苗木を育て、植林し、何十年もかけて森になっていく。普段の生活では想像もしなかった長い時間の積み重ねを知り、森を見る目が少し変わった気がします。

山梨視察、木材加工

また、木材加工の現場では一本の木がさまざまな形に姿を変えていく様子を見せていただきました。建物の柱や板材になるだけでなく、枝葉や端材はバイオマス発電の燃料として活用されるなど、木は本当に無駄なく使われていることを知りました。森を守りながら資源として生かしていく林業を通じた循環を実際に見ることができ、森と人との繋がりや深さを改めて感じる時間となりました。これからも現場で学んだことや出会った方々の想いを、みどりの大使として多くの方に届けていきたいです。

愛実のつなぐ・届ける・森の声

「毎年チャレンジで、毎年1年生」

この言葉は、苗木生産の現場を見させていただいた際に、有限会社 明見緑化の宮下さんからいただいた言葉です。長年この仕事をしていても、「毎年1年生の気持ちなんだよ」とおっしゃっていたことに、私はとても驚きました。理由を伺うと、苗木づくりはその年の天候や気温、雨の量によって状況が大きく変わるため、経験があっても同じようにはいかないそうです。種をまく時期や水を与えるタイミングも、その年の様子を見ながら考えていると聞き、自然と向き合う仕事の奥深さを感じました。

